

令和5年度 学校関係者評価委員会 外部委員の評価のまとめ

自己点検評価項目		平均	評価(意見)	評価結果とその背景	今後の取り組み
I. 教育目的・目標 教育理念					
教育理念・目的・目標の設定と達成	・教育上の特徴を示しているか。	4.5	<p>・すべての学生に活かされないとしても、個々に合わせたアプローチがされている。</p> <p>・入学時をはじめ、様々な機会に理念を踏まえて説明されている。色々な場面で教育理念を意識づけていくことは重要であると考え。</p>	<p>・教育理念・目的・目標の設定と達成についての5段階評価の結果は、委員全員から4点以上の評価(平均4.3~4.5)をいただいた。</p> <p>・学習の手引きに教育理念・目的・目標や協同の精神について示し、入学時や進級時のガイダンスで周知を図っている。また、学修ポートフォリオを活用し学修が積み重ねられるよう支援し、「期待する卒業生像」に関しては、3年間の変化が見えるよう到達度(レーダーチャート)を可視化している。個々に合わせたアプローチがされていると評価いただいた。</p>	<p>・教育理念等に関するガイダンスを継続し、学生への周知を徹底していく。</p> <p>・期待する卒業生像に関しては、毎年自己評価し、到達度を可視化することで意識できるように継続的に取り組む。</p>
	・学生が卒業時点でどのような資質を有すべきかを明示しているか。	4.5			
	・教育理念・目的・目標の周知が図られているか。	4.3			
	・学生の学修指針に活かされているか。	4.3			
	・教師の教育活動指針に活かされているか。	4.3			
II. 学生の受け入れ					
学生募集の広報活動	・入学希望者開拓の広報活動等が適切かつ効果的に行われているか。	4.3	<p>・学院の教育理念が、学生、保護者、高校、地域住民に浸透していると感じる。</p> <p>・コロナ禍の中で感染防止に努めながら、可能な範囲での広報活動を行っている。感染症分類の変更に伴い、より効果的な広報活動の開催方法の検討、実施に期待する(オープンキャンパスなど)</p>	<p>・昨年度の評価では若干低下していた「入学希望者の開拓」「選抜の公平性」については評価点が上昇し、すべての項目において4.0点以上の得点となり、一定の水準に達していると評価いただいたと考える。</p> <p>・学生の受け入れに関する当学院の努力については、評価していただいたものの、入学希望者の開拓の結果として希望者数が増加したかという点においては、令和6年度入学生入学試験受験者数の減少という状況から再考が必要とされる。</p>	<p>・さらなる広報活動の展開を行う。また、高校生の進路に関する志向について、高校進路指導部からの情報収集を行う。</p> <p>・高等学校学習指導要領の改定後、初めての学生募集となる令和7年度入学生選抜をひかえるにあたって、現在の入学生選抜の方針・方法について確認と検討を行う。</p>
入学者選抜の方針・方法	・選抜の方針・方法は教育理念・目的・目標にてらして妥当であるか。	4.5			
	・選抜の公平性が図られているか。	4.5			
III. 学生生活の支援					
学修継続への支援	・奨学金等の経済的支援について周知し、活かされているか。	4.5	<p>・新型コロナウイルスの感染拡大等で社会活動の参加は困難を要したと思われる。今後は病院で行っているインターンシップなども利用され、隣地実習では味わえない新しい発見や、患者様、看護師とのコミュニケーション能力の向上に役立てていただければと思います。</p> <p>・支援を希望していなかった生徒にも、都度確認と周知が行われている。コロナ禍によって制限されている中で、できる範囲のことは行われている。</p>	<p>・学生生活の支援について「社会活動の支援」の他は、昨年同様、委員全員から4以上の評価をいただいた。「社会活動の支援」が他と比較し低い評価となった要因として、新型コロナウイルスの影響による制限のため、社会活動等の参加が困難であったことが考えられる。しかし、一部の学生は地域におけるボランティアに参加したり、病院で行われた「病院説明会」にリモートで参加することができ、その時の社会状況に合わせ、できる範囲で行えたことが評価されている。</p> <p>・奨学金についての情報や学院におけるスクールカウンセラーの配置について、支援を必要としない学生に対しても周知し管理できていると評価いただいた。</p>	<p>・社会の状況を見ながら、ボランティアなどの依頼があればできる範囲で参加できるように支援していく。</p> <p>・奨学金等の経済的支援についての定期的な説明や、カウンセラーの各学年に応じた内容と時期での講話や面接体験などの取り組みを継続して支援していく。</p>
		・カウンセラーの配置等健康相談について周知し、活かされているか。			
社会的活動への支援	・社会活動等に学生が積極的に参加できるように周知し支援しているか。	3.7			
卒業後の進路選択への支援	・進路情報について周知し、適切な指導が行われているか。	4.5	<p>・社会活動への参加は重要であるため、感染症分類の変更に伴い、参加しやすい働きかけを行っていただきたい。</p>		

IV. 教育課程						
	教育課程の編成	・教育目的・目標や社会のニーズ、学問的動向に沿った編成をしているか。	4.5	・新カリキュラムにより、「地域を知る実習」が組み立てられている。地域密着型の教育としてさらに連携等を学べる内容に期待する。 ・ホームカミングデイなどのサポートもあり、卒業後の評価も行っている。また、当院の新人教育も役立っている。	・今回は、新カリキュラムが適用された1年目に対する評価を受けたが、2項目ともに昨年を大幅に上回る評価をいただいた。当学院のカリキュラムの独自性について理解していただき、その点に関して評価をいただいたものと考える。	
	教育課程の見直し	・定期的に評価し、改善しているか。	4.7			
V. 教育活動・教育指導						
学 科	学習支援(ガイダンス)	・学生が学修しやすいような内容・方法で、ガイダンスを行っているか。	4.2	・新カリキュラムの実践評価が行われ、見直しが行われている。	・学科に関する6項目については、4.0以上の評価をいただいたが、新カリキュラムが令和4年度から始まり、新カリキュラムに沿ったシラバスを作成し、ガイダンスしたことが評価されたと考える。 ・授業の計画的遂行・調整についての1項目が3.8であった。新カリキュラムとなり新たに科目進度を調整したが、過密な時期とゆとりのある時期とにばらつきがでてしまったことが反省点である。 ・教員の授業準備時間確保について、昨年より高い評価をいただいた。実習指導教員採用が時間確保につながっていると、評価をいただいた。	・反省点をふまえ、学生の学びが積み上げられ、さらに学びやすいように授業進度を調整していく。
	授業の計画的遂行・調整	・学生が学修しやすいように授業の進度を計画調整しているか。	3.8	・教員の方々の時間を作ることは重要と考える。実習指導教員採用で、確保できた時間を準備等の時間に活用できると良いと思われる。		
	シラバスの作成状況	・学習への動機づけになるようなシラバスを作成しているか。	4.0			
	授業科目の担当・時間数	・教員の専門性が発揮出来るように担当科目と時間数を配分しているか。	4.2	・実習の目的・内容に合わせたオリエンテーションを施行できている。また、実習前の準備として、演習も行われている。		
	教育・学習指導方法の工夫	・教員が授業準備の時間をとれる体制を整えているか。	4.3			
		・教員が自己研鑽し、指導方法を工夫できる体制を整えているか。	4.0			
授業評価	・教員は授業評価を行い、指導方法を改善しているか。	4.2	・教員、指導者との情報共有、連携をさらに強化していく必要あり。			
実 習	学習支援(オリエンテーション)	・学生が実習しやすいような内容・方法でオリエンテーションを行っているか。	4.2	・ルーブリック評価表の活用で、各々の立場での理解が深まっている。	・すべての項目で4.0以上の評価を頂いた。臨地実習については、実習指導者と協議のうえで指導要綱の見直しを毎年行っている。また、新カリキュラムでの臨地実習についても、実習施設や指導者と協議しながら実習要綱が整備できるよう準備を行っている点で評価を頂いている。 ・教員の実習準備の時間確保や、自己研鑽については、令和4年度より0.2ポイント低くなっているが、令和4年度は実習指導教員が不在となり、専任教員の負担が増えたことが要因と考えられる。また、新カリキュラムでの実習開始に向けた準備時間の確保が必要であったことも要因と考えられる。	・令和5年から新カリキュラムの実習が開始されるため、引き続き実習指導者と連携し評価しながら指導要綱の内容やオリエンテーションの内容を修正していく。 ・令和5年度は実習担当教員が採用となったため、専任教員の実習準備や自己研鑽の時間が確保できたか評価していく。
	臨地実習の計画的遂行・調整	・学生が実習しやすいように実習を計画・調整しているか。	4.0			
	実習指導要項の作成	・実習への動機づけになるような指導要項を作成しているか。	4.2			
	臨地実習の担当・時間数	・教員の専門性が発揮出来るように担当場所、時間数を配分しているか。	4.2			
		・教員が実習指導準備の時間が取れる体制を整えているか。	4.0			
	実習指導方法の工夫	・教員が自己研鑽し、指導方法を工夫できる体制を整えているか。	4.0			
実習評価	・教員は実習評価を行い、指導方法を改善しているか。	4.2				
特別活動	学校行事	・学生や教員が参加しやすい日程、時期を計画し指導しているか。	4.3		・すべての項目で4.0以上で昨年度より高い評価をいただいた。新型コロナウイルス感染症が5類となり、積極的に活動ができるようになっている。	・引き続き、学生が積極的に活動に参加できるよう調整していく。
	自治会活動、H・R活動	・学生や教員が参加しやすい日程を計画し指導しているか。	4.3			
成績評価	成績評価の方針と基準	・学生に成績評価の方針と基準を公表し、周知しているか。	4.5		・クラス担当、各教科担当者より、成績評価・単位認定の基準を説明しており、学生も理解できている。	
単位認定	単位認定の方針と基準	・学生に単位認定の方針と基準を公表し、周知しているか。	4.3			
VI. 学校環境						

施設設備	校舎の設備と管理	・定期的に点検し、適正な整備を行っているか。	4.5	・定期的な点検・整備がなされている。美化対策には学生も主体的に取り組んでいる。	・学校環境の管理・整備に関して委員全員から4点以上の評価を頂いた。 ・新カリキュラムに伴う新規の実習施設について、学生控え室の整備をおこなった。 ・定期的な点検と計画的な修繕によって安全性の確保や美化に努めている。	・新カリキュラムに伴う新規の実習施設については、使用してみて不備がないか確認していく。 ・定期点検及び整備は継続していく。
	学生寮の設備と管理	・定期的に点検し、適正な整備を行っているか。	4.3			
	美化対策	・校舎及び庭等の美化対策に努めているか。	4.3			
実習施設	実習用品の整備	・実習用品を定期的に点検し、適正な整備を行っているか。	4.2			
	学生控室等の整備	・備品等を定期的に点検し、適正な整備を行なっているか。	4.3			
VII. 組織・管理・運営						
組織体制の整備		・組織体制と意思決定システムを明確に規定しているか。	4.3	・県内でも頻発している気象災害に対応するマニュアルが策定されている。 ・県内就職率が高いことは素晴らしい。 ・危機管理マニュアル(気象災害及びライフラインの支援編)が整備された。	・組織・管理・運営の体制についての5段階評価の結果は、委員全員から4点以上の評価(平均4~4.5)をいただいた。 ・事故への対策と安全管理については、平成28年度から順次作成している危機管理マニュアルを毎年度、計画的に作成していることを評価されている。 ・令和5年度は、臨地実習中の事故について、新カリキュラムの実習展開に合わせて整理・変更した。 ・県内就職率については令和4年度卒業生の県内就職率が目標の90%を超え、97.2%に達した。 ・県立の看護師養成所として、県内の看護師確保対策は喫緊の課題であり、県内就職者の確保は今後も取り組んでいくべき目標として掲げていく。	・年々、予算確保が難しい状況にあるが、看護基礎教育に必要な書籍の確保、教員の資質向上のための研修経費の確保など、看護師養成教育の質の確保、向上に継続して取り組んでいく。 ・危機管理マニュアルも引き続き計画的に内容を点検し、必要とあれば新たなものを策定する。また安全管理を徹底し、事故を未然に防ぐ取り組みを進めていく。 ・県内就職率90%以上の目標を今後も掲げ、本学院が立地する益田・鹿足郡地域をはじめ、県内の看護師確保対策に繋がるよう取り組んでいく。
教員人事の適正配置		・教職員の任用の考え方を明示しているか。	4.2			
職員の業務分掌		・職員の業務分掌を明示し、周知しているか。	4.3			
講師・実習指導者の確保		・講師・実習指導者の選定の考え方を明示しているか。	4.0			
予算・経理	予算要求	・要求項目を精査し、要求金額を明らかにするなど、合理的な予算要求に努めているか。	4.3			
	庶務・経理	・法令・規則等を遵守し、適切な予算執行に努めているか。	4.3			
		・迅速な事務処理に努めているか。	4.3			
事故の対策と安全管理		・事故の対策と安全管理の考え方を明示し、周知しているか。	4.3			
会議、委員会の運営		・会議・委員会の規定に基づき、運営しているか。	4.5			
学籍の管理		・学籍の管理の方法を規定し、適正に管理しているか。	4.3			
国家試験合格状況		・国家試験合格状況を分析し、整理しているか。	4.3			
卒業生の進路		・卒業生の進路状況を分析し、整理しているか。	4.2			
VIII. 研修・研究						
教職員の研修等活動		・教職員の資質向上のための研修等への積極的参加について支援しているか。	4.2	・研修会に参加され自己研鑽に励まれている。 ・教育機関であるため、学院内や院外(実習施設)との共同研究等も積極的にさせると、より一層学生の教育の質向上につながるのではないと思う。 ・教員全員が研修を受講できる体制が整えられ、1人1人が意欲的に取り組む姿勢が伺える。 ・対面での研修、ICT活用も併せて、自己研鑽を継続していく。	・研修参加への支援体制に対して評価頂いたと考える。 ・新カリキュラムが始動しており、研修にできる限り参加し教育力の向上に努めている。 ・研修は実習施設にも参加していただき、ともに教育の資質向上に努めている。実習施設と共同研究を行うことでさらに連携した教育ができることを期待されている。	・引き続き可能な限り研修等へ参加し、自己研鑽に努める。 ・教育に関する看護研究についても平常業務と並行しながら取り組めるよう検討していく。
IX. 社会との連携						
地域社会との連携と交流		・地域住民や施設との連携や交流について積極的に支援しているか。	4.2	・積極的に地域と関わる行事を実施されている。今後も引き続き実施していただきたい。	・コロナ禍にあり地域との交流が難しい状況が続いていたが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行してからは、少しずつ地域との交流の機会が増えており、そういった状況をふまえてご評価いただいたものとする。	・令和4年度から地域理解が深まるカリキュラムがスタートしている。地域の方々の協力を得ながら学生の学習環境を整えていく。 ・ボランティア等カリキュラム外の活動についても依頼があれば積極的に参加を支援し、地域との交流を図っていく。
実習施設との連携と交流		・積極的に実習施設との連携や交流を行っているか。	4.5			
X. 学校評価						
自己点検・自己評価体制		・自己点検・自己評価体制について規定しているか。	4.3		・自己点検自己評価、学校関係者評価を実施する体制を整えていることをご評価いただいた。	・自己点検自己評価、学校関係者評価の実施に引き続き取り組んで行く。また評価結果を学校運営に反映させ、魅力ある学院づくりを目指していく。
		・自己点検・自己評価し改善しているか。	4.3			